



▲エンゼルケアについて語る笹原さん

「看護師が行うエンゼルケア」

復元納棺師 桜 笹原 留似子

第1回 清拭と保湿

死後のお体は乾燥していくことしかできないのが特徴です。火葬まで良好に保つため、土台作りの重要な項目の1つに「清拭」があります。

清拭は肌の汚れ(垢や菌等)を除去し清潔にするだけでなく、その後保湿を実行することで良好な肌の状態を維持することができます。清拭は感染予防の目的としても有効です。

肌に摩擦を起こすリスクを減らすために、清拭を行う際は水分をたっぷり含んで湿らせた脱脂綿又はタオルを使用しましょう。

◆施行のながれ

右図に示した矢印の方向、顔(体)の中心から外側へ拭いていきます。

死後のご遺体の脂肪分はいずれ重力に従い下垂します。お顔だけではなく、耳や首、シワの間も忘れずに清拭しましょう。

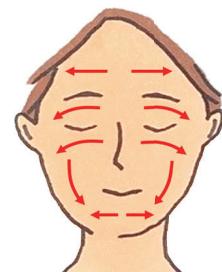


図:清拭と保湿の方向(例)

◆生命活動を終えたひとの体の特徴・変化・対処法

	生命活動を終えたひとの体の 代表的な特徴	一般的によく起こる 死後変化	対処法
1	乾燥していくことしかできない	表皮上に粉が目立つ、 変形など	清拭、保湿
2	体の置かれた環境の温度と同じになろうとする	体内のバクテリア繁殖による、死臭、変色など	セーフティセットの使用と 冷却管理



ヒュー・メックス News!

下記展示会に出展いたしました

第15回
日本クリティカルケア看護学会学術集会

会期 2019/6/15土～6/16日

会場 別府国際コンベンションセンター
B-Con Plaza(ビーコンプラザ)

▲弊社のブースです

第24回 日本緩和医療学会学術大会

会期 2019/6/21金～6/22土

会場 パシフィコ横浜



▲笹原さんのミニ講義も開催しました

|| これからの出展予定 ||

日本緩和医療学会
第2回
中国・四国支部学術大会

会期 2019/8/30金

～8/31土

会場

広島コンベンションホール

ブースではアンケートを実施中！ステキなプレゼントをご用意しています。

※弊社展示ブースは31日(土)のみです。

「まみちゃん(仮名)、4歳」



まみちゃんには、2つ年上の6歳になるお姉ちゃんが居て、2つ年下の2歳の妹が居ます。毎日、元気に保育園に行く三姉妹です。

ある日、まみちゃんは高熱を出しました。その夜、お父さんとお母さんは、いつもの発熱かと思いましたが、声を掛けても返事をしなくなつたことで慌てて夜間救急へ行きました。

まみちゃんは、そのまま病院で息を引き取りました。そして、私が呼ばれました。

死んだと言われても、信じるわけにはいかない。

お父さんは、肩を落としていました。お母さんは、放心状態で無言でした。

「ずっと一緒に居たい、火葬なんて嫌だ。」

その言葉を聞いて、お父さんとゆっくりお話ししながら希望を聞きました。片時も、まみちゃんと離れたくないと言ってくれるお父さんとお母さんの気持ちを尊重し、親子で充分に過ごせる期間を取ることにして、火葬は7日後(死後8日目)に決めました。



まみちゃんとずっと一緒に居たい！

遺体を8日間持たせること、お父さんとお母さんは、まみちゃんを抱いて過ごすこと(遺体を動かす)が予測されましたので、動かして出血や体液、臭いが出れば、自分を責めたり本人を心配したりの不安が一層強く深くなります。これ以上の不安を抱えないう、遺体の変化を起こさないために、いつも通り、セーフティセットを使ってお手当てをしました。

「お手当てをさせてもらつて、まみちゃんの体は安定していますから、お布団で今日は一緒に寝ても大丈夫です。明日また、来ますので。」

雪が降る寒い日でしたから、寝る部屋のストーブを消してもらいました。遺体は、お部屋の温度と同じくなろうとしますから、あつという間に腐敗が進

行して面影をなくします。

翌日、伺いました。死亡から3日目のことでした。

お父さんが大きな声で泣いていました。6歳のお姉ちゃんが私の右側にもたれかかつて言いました。

「お父さんが、ずっと泣いちやうの。拭いて来てもいい？」

お姉ちゃんが私に聞きました。

「うん、いいよ。いっぱい拭いたなーって思つたら、ここに戻つておいでね。」

「うん！」

自分のハンカチを持って、お姉ちゃんはお父さんの涙を拭いていました。お参りに来た人たちの涙も拭いて歩いていました。どんなに小さな子も自分の役割を探しているのがお別れの時間の特徴です。

泣いている人たちは、隣のお部屋へ移動してお父さんとお母さんとお話を始めました。お姉ちゃんは私の所へ戻つて来て、

「ただいまー！」

と言いました。そして、私の右側にもたれかかり、小さな声で言いました。

「ねえ、あのね、あのイチゴ食べても良い？」

見ると、まみちゃんが好きだったイチゴを持って、沢山の方がお参りに来てくれていたので、イチゴのパックが7つ並んでいました。

「良いよ(笑)でもね、1つのパックから何個か食べたらバレちゃうから、1つのパックから1個ずつ、全部で7つ食べても良いよ。」

「わあ、そんなに食べられるかなあ？」

お姉ちゃんはちょっと嬉しそうに言いました。

「まみちゃん、お姉ちゃんと一緒に食べようね！」

お姉ちゃんは、布団に横になるまみちゃんの胸の辺りを、優しくトントンして言いました。



るお部屋まで、お姉ちゃんが玄関から私の手を引いて案内してくれました。お部屋には、おばあちゃんが居ました。お父さんとお母さんは、居間で色々な書類を書いていました。

「昨日の夜ね、お母さんが…、笛原さんが置いて行つてくれたお化粧セット(メモリーシオン)ですね。ずっとまみちゃんのお顔に保湿して、少し色が変わつて来た所(死斑)を直していました。私は、まみちゃんを見て、胸がグッと熱くなりました。それは、保湿も変色直しも、申し分ないくらい上手に出来ていたからです。お母さんはまみちゃんに、ゆっくり、ずっと触れていたんだな、何をお話ししていたのかな、そう思つたからです。

そこへ、お母さんがお部屋に入つて来ました。私は声を掛けました。

「おばあちゃんから、伺いました。お母さん、上手ですね。クリームがよく浸透していく、直すところは何ひとつないですよ。」

お母さんは言いました。

「私は母親なのに、まみのために何もしてあげられないと思いました。でも、笛原さんが保湿はたくさんしてあげてね、気になるところは直して良いよつて言つてもらつたから、昨日の夜ね、初めてゆっくり触りました。信じられなくて、信じたくなくて、怖くて、怖くて。」

お母さんはそれでも、火葬の出発の日まで毅然とした態度で泣きませんでした。泣くことが大事なではなく辛さを外に出せていないのでではないかと心配していました。

出棺の日まで布団で安置していました。8日目の火葬の日に、納棺をしました。

「いつでも会えますよ。いつでも連絡をください。すぐ、お母さんに会いに行くからね。」

お母さんは、うんうんと頷きました。

「お母さん、まみちゃんに触れられる最後の時間です。最後に、もう1回直しましようか？」

ずっとお母さんがまみちゃんのために使つていたメモリーシオンを私が差し出して、お母さんがまみちゃんの首の死斑を少し直した後、お母さんはそのまま、まみちゃんの頬に頬ずりをして、「まみー！まみー！」

と何度も名前を呼び、まみちゃんの体の上に顔を置き泣き崩れました。あの日から泣かないと頑張つていたお母さん、感情をやつと出してくれました。その姿を見て私の目からも、ポロボロと涙が流れています。

收骨には沢山の人があつまつてくれていました。人がたくさんいる時は、私はここで終わりにしていません。まみちゃんが窯へ入るのを見届けて、静かに帰りました。

「笛原さんは、もう終わりですか？もう、会えませんか？」

まみちゃんとお別れをしたばかりなので、もう会えないのかと聞いていました。また、さようならを経験するのは辛いことです

「いつでも会えますよ。いつでも連絡をください。すぐ、お母さんに会いに行くからね。」

お母さんは、うんうんと頷きました。

小さな3つのプレゼント



まみちゃんとのお別れ

まみちゃんは、老家を出発しました。特別なことがない限り、私は火葬に立ち合うことはありませんが、お母さんの希望で私も火葬場へ向きました。火葬場に着き、火葬場の窓の前で、お母さんに声を掛けました。

おばあちゃんが、教えてくれました。

「昨日の夜ね、お母さんが…、笛原さんが置いて行つてくれたお化粧セット(メモリーシオン)ですね。ずっとまみちゃんのお顔に保湿して、少し色が変わつて来た所(死斑)を直していました。私は、まみちゃんを見て、胸がグッと熱くなりました。それは、保湿も変色直しも、申し分ないくらい上手に出来ていたからです。お母さんはまみちゃんに、ゆっくり、ずっと触れていたんだな、何をお話ししていたのかな、そう思つたからです。

そこへ、お母さんがお部屋に入つて来ました。私は声を掛けました。

「おばあちゃんから、伺いました。お母さん、上手ですね。クリームがよく浸透していく、直すどころは何ひとつないですよ。」

お母さんは言いました。

「私は母親なのに、まみのために何もしてあげられないと思いました。でも、笛原さんが保湿はたくさんしてあげてね、気になるところは直して良いよつて言つてもらつたから、昨日の夜ね、初めてゆっくり触りました。信じられなくて、信じたくなくて、怖くて、怖くて。」

お母さんはそれでも、火葬の出発の日まで毅然とした態度で泣きませんでした。泣くことが大事なではなく辛さを外に出せていないのでではないかと心配していました。

出棺の日まで布団で安置していました。8日目の火葬の日に、納棺をしました。

「いつでも会えますよ。いつでも連絡をください。すぐ、お母さんに会いに行くからね。」

お母さんは、うんうんと頷きました。

小さな3つのプレゼント



発行・企画・編集

株式会社ヒュー・マックス

〒733-0012
広島市西区中庄町三丁目3-21

TEL 082-532-0361

FAX 082-295-6284

URL http://www.hum.co.jp/